

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①科学技術教育に関する感性を醸成させ、幅広い教養・技能・技術を身に付けさせる。</p> <p>②基礎学力の定着と学力向上に向けて、指導の工夫や充実を図る。</p>	<p>①上級学校進学希望者に対する教育内容を充実させる。</p> <p>②基礎学力の定着に向けて指導方法の改善や学び直しに向けた取組を充実させる。</p>	<p>①東海大学などとの連携による授業体験で科学技術教育に関する感性を醸成させる。</p> <p>各系間の連携を密にし、資格取得の促進やコンテストへの参加を促す。</p> <p>②基礎学力テストと進路先との関連性を調査し、生徒個々の進路希望にあわせた指導の充実を図る。</p> <p>学び直しを数学分野ごとに行い、生徒個々の苦手分野を把握し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>①理工系大学の進学希望者のニーズに対応できているか(生徒アンケート)。</p> <p>生徒の資格取得率は増加したか。コンテストへの参加状況。</p> <p>②基礎学力テストの分析結果を振り返り、生徒個々の進路実現に向けた指導が行えたか。</p> <p>基礎的計算力の定着は図れたか。</p>	<p>①東海大出前講座は3回実施。新規で夏季休業中に大生体験授業へ参加した(1年3名)。</p> <p>各試験や検定受験者は昨年同数。全体の合格者は5%ほど上昇した。</p> <p>②テスト結果や学び直しの取組を通じて生徒個々に応じた指導計画を立て、実行した。</p> <p>基礎学力テストの振り返りをもとに進路先の傾向分析を行った。</p>	<p>①連携先の大学や参加生徒をさらに拡大する必要がある。</p> <p>上位資格やジュニアマイスター取得の増加に向けて一層のPRが必要である。</p> <p>②入学者層が変化し、学力差を踏まえた指導が求められている。指導方法の改善とITCを活用した指導を工夫する必要がある。</p> <p>引き続き継続してデータ収集を行う必要がある。</p>	<p>①ものづくりへの興味、車・ロボットに関心のある生徒が平工を選ぶ。目的意識を持った生徒の意欲をうまく伸ばしてほしい。</p> <p>公共、政治参加の意識を高める取組もぜひ行ってほしい。</p>	<p>①出前授業の実施、大生体験授業など進学希望者への取組を積極的に行った。回数、人数の拡大が課題である。</p> <p>②学び直しの取組により学力の低い生徒の割合は減少している。上位層の実力を伸ばす取組が今後の課題となる。</p>	<p>①生徒の興味、関心などを調査し、生徒のニーズを踏まえた高大連携を拡充する。</p> <p>②学習アプリを使って生徒一人ひとりの必要に応じた学習を進めるとともに、職員も機能を熟知し活用を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣を確立し、社会性を持った人材を育成する。</p> <p>②教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制を構築する。</p> <p>③部活動を活性化させ、責任感やコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>①生活習慣、挨拶、交通マナーの指導体制を整える。</p> <p>②教育相談体制の充実に向けて校内の理解と校外との連携を図る。</p> <p>③部活動加入率を向上させ、学校行事を充実させる。</p>	<p>①集会や校内巡視指導などを通じて挨拶を励行し、交通マナーの徹底を図る。学年と連携して遅刻の数を減らす。</p> <p>②教育相談コーディネーター、養護教諭、担任、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)が密に連携し、教育相談体制を充実させる。</p> <p>③入学説明会やオリエンテーションで部活動の魅力が伝わるよう工夫し、入部しやすい環境を整える。各行事では趣旨を明確にし、充実するよう工夫する。</p>	<p>①遅刻数が減少したか。</p> <p>②SCへの相談件数が増加したか、教育相談体制充実の事例はあったか。</p> <p>③部活動加入率が上がっているか、各行事の内容、進行は計画通りだったか。</p>	<p>①遅刻者数は昨年度に比べ増加(1月末現在6%増)。</p> <p>②SCへの相談件数は昨年度の40件(内保護者16件)から56件(内保護者20件)に増えた。</p> <p>③1学年の入部率が65%と上昇し、各行事では趣旨を明確にし、円滑に進めることができた。</p>	<p>①昨年度に比べ前半での遅刻数は少なかったが後半、特に12月、1月が増えていた。年度後半にかけての遅刻対策が課題である。</p> <p>②保護者の相談件数も増加し、現時点で満杯状態である。これ以上の増加にはSCの勤務日数を増やす必要がある。</p> <p>③部活動勧誘・運営の充実を継続するとともに、入部率向上を図る。また各行事の活性化に向け、委員会活動の改善に集中して取り組む。</p>	<p>①生徒達が挨拶をよくしてくれる。今後も指導を続けてほしい。</p> <p>自転車の乗り方など交通マナーについては取組の強化をお願いしたい。</p> <p>②週休日の設定を工夫していただきたい。</p>	<p>①遅刻者数、交通マナーに関する近隣からの指摘は総じて減少している。日頃からのきめ細かな指導が重要である。</p> <p>②SCとの連携協力を得て、教育相談体制は質、量とも充実させることができた。</p> <p>③部活動加入率は新入生を中心に向上した。また行事の充実に向けた取組も始められた。</p>	<p>①月別遅刻者数を早期に把握し対応する。交通安全指導は1年から徹底して行う。</p> <p>②SCとの情報交換を密に行い指導に生かす。ケース会議を活用し情報共有に努める。</p> <p>③部活動では特に運動部の充実を図る。委員会活動の改善により、行事の活性化を図る。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月20日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①体系的なキャリア教育実践プログラムを確立する。 ②生徒が主体的に進路決定に向き合える進路指導の充実を図る。	①キャリア教育実践プログラムの改善を図る。 ②経験に基づく進路決定に向けて、インターンシップ受入先の拡充と進路指導メニューを充実させる。	①基礎的・汎用的能力の育成を目指し、プログラムの改善とキャリア教育の充実を図る。 ②校外との連携を深め、インターンシップの受入先拡充に向けた取組を推進する。 進学希望者へのサポート体制を整える。 企業求人情報を有効利用する。	①プログラムの改善が進み、キャリア教育は充実したか。 ②地元企業やハローワークとの連携は進んだか。 製造業系の受入先を増やせたか。 上級学校見学、オープンスクール、高大連携事業への参加者を増やせたか。 求人を見直し希望者と良好なマッチングが図れたか。	①昨年度の課題を精査しプログラムを改善実施した。 ②インターンシップは受入先を就職実績のある製造業へ若干入替(累計35社54人参加)。新規に大学体験授業へ3名参加(再掲)。高大連携事業参加は例年並み。 丁寧な斡旋を進め、内定率は100%を達成した。	①完全実施には教材リニューアルやHRでの活用など職員の意識改革が必要。 ②ハローワークとは講師派遣や情報提供で密接に連携している。今後、障がい者の就労先などでも連携を続ける必要がある。 2年生の上級学校見学が昨年の59人から30人へと激減したのが課題である。 1、2年生からの進路希望に関する意識付け、動機付けが課題である。	①各大学には出前授業等のプログラムがある。多いに利用してほしい。 ②アジア諸国の工業教育が進歩し、施設・設備の整備や日本語教育が進んでいる。生徒へは就業後を見据えた自己表現のトレーニングを強化してほしい。	①視点を定めて実践プログラムを改善実施した。職員の意識向上が課題である。 ②インターンシップや上級学校見学の参加者が昨年より減少した。1、2年の段階で経験による進路の意識付けを図っていく必要がある。	①学校運営協議会委員などに広く取組を公開して実践プログラムの充実を図る。 ②上級学校見学やインターンシップへの積極参加を促すため、紹介方法や時期、対象学年などの見直しを行う。
4 地域等との協働	工業系専門高校として、ものづくり体験教室を始め、文化祭や学校へ行こう週間等の地域への公開で、開かれた学校づくりを進める。	ホームページや広報活動を充実させるとともに、説明会等の実施形態を見直し、中学生や地域からの信頼づくりに努める。	ホームページの内容の充実と更新の機会を増やす。 説明会などの広報活動を工夫する。 近隣の中学生を本校に招き、ものづくりを通して体験授業を実施する。	ホームページは充実したか、更新回数が増加したか。 広報活動に新たな工夫は伴ったか。 参加者の評価(アンケート)。	レイアウトを一新した。スマホ版を開発し、週1回以上のペースで更新した。 説明会参加は昨年並み。8月説明会では新規に実習を利用したPRで参加者数が増えるように検討する。85中学を職員が訪問し、特色や選考基準を説明した。 親子ものづくり教室では小・中学生、保護者に工業高校をアピールできた。	内容の充実とアクセス数の更なる増加に向けて、より見やすく興味がわくホームページの見直しを行う。 説明会実施の日時・内容等を利用したPRで参加者数が増えるように検討する。中学校訪問の時期を早めるなど、実施時期の検討を行う。 近隣中学校などへの体験授業などの実施で、本校のPRを試みる。	ホームページはスマホにも対応できるなど充実してきている。 志願者数減は残念。工業高校では大学進学できないと考える保護者が多いのでは。進学も含めもっと魅力を打ち出すべきだ。 中学1、2年生へのPRを考えるべきだ。 小学生は体験授業や実験教室を楽しみにしている。	ホームページのリニューアルや学校説明会での実習体験の導入、中学への職員訪問など広報活動の充実が図られた。 工業高校の魅力や卒業後の進路を中学1、2年生にいかにかアピールできるかが課題である。	ホームページはアクセス数の多いサイトを解析し、内容の充実に引き続き努める。 8月の親子ものづくり教室の規模・内容を見直し、実習体験は規模内容を拡充する。 中学1、2年生向けのアピール企画を検討する。
5 学校管理 学校運営	①事故・不祥事もなくし、地域の信頼を高める。 ②教育環境を整備し、安全安心な学校を堅持する。 ③防災意識を高め、地域の防災拠点としての充実を図る。	①不祥事防止に向けて啓発資料の提供や研修を充実させる。 ③職員、生徒の防災意識が高まるよう、防災訓練、防災講演会を充実させる。	①校務の時期に合わせた啓発を行い、また職員が切実に感じられるよう研修内容を工夫する。 ③地域と連携した実践的な防災訓練を行う。防災専門家による講演会を実施する。 DIG(図上訓練)を実施する。	①啓発や研修は効果的であったか。 ③防災訓練や講演会を実施することによって、職員及び生徒の防災意識が高まっているか。	①43回の不祥事防止研修を実施できた(昨年度35回)。 ③講演会は生徒アンケートの「理解できた」が78%(昨年度87%)に減。防災訓練、防災検討会は昨年並み開催。DIGを実施した。	①短時間でも研修の効果が上がるよう、内容、形態を工夫する。 ③生徒の防災意識が向上するよう、防災講演の内容を再検討する。また校内防災組織や地域との連携のあり方を見直し、地域防災拠点としての本校の役割を再確認する。	①部活動指導ではセクハラ・パワハラに十分留意してもらいたい。 ③11月に平工で行われた平塚市防災訓練に参加させてもらった。指定避難所としてお世話になっている。地域からの期待も高い。	①不祥事・事故防止に向けた資料提供、啓発、研修を重ね、職員の危機管理意識向上が図られた。 ③防災訓練や講演会を通じて生徒、職員の意識向上が図られた。内容の改善が課題である。市防災訓練への会場提供など防災拠点の役割も果たせた。	①時間、内容、主催者を工夫し、心に響く不祥事・事故防止のための取組を進める。 ③避難訓練、避難誘導訓練を学校運営協議会委員などに広く公開して内容の充実を図る。